塚本　孝明　議員（一問一答方式）
多くの人が集まる総合文化センターの治安対策
―駅前周辺の警らを行うよう警察署に要請―

問　刈谷警察署管内における犯罪の傾向はどうなっているか。

答　自転車盗や車上ねらいなどの刑法犯が増加傾向にあり、侵入盗も多発している。

問　地域の治安維持の拠点となる交番の設置状況はどうか。

答　昭和41年に刈谷駅前交番が設置された後、平成17年の富士松交番まで、現在市内に８交番が設置されている。

問　各交番での勤務体制と設置基準はどうなっているか。

答　署員が24時間３交代で勤務するとともに、３台のパトカーで常時警らしている署員とも連携を取っている。交番の設置は、原則１中学校区１交番とし、本市は６中学校区であるが人口や地理的な状況に応じて、８交番設置されている。

問　現在の設置場所では不便だと思われる交番を移転することはできるか。

答　関係機関や地域の意向を踏まえて最適な候補地が見つかれば検討していく。

問　刈谷市の玄関口となる総合文化センターの治安対策は。

答　駅前有料駐車場にパトカーを駐車できるようにして、周辺の警らを警察署に要請する。

新海　真規　議員（一問一答方式）
ＩＴ社会における市民と行政の距離感を縮める情報提供施策
―広報の充実とともにさらなる研究をしていく―

問　刈谷市における行政としてのインターネット活用状況はどのようになっているか。

答　平成８年度のインターネット導入に伴いホームページを開設し、行事案内や暮らしに役立つ情報、緊急災害情報などを含め市政に関する情報提供を行っており、昨年度は約72万件のアクセスがあった。また、本年からは動画配信を始めている。

さまざまな情報を発信／刈谷市ホームページ

問　要望、苦情等があった場合はどのように対応しているか。

答　関係部署よりメールにて回答している。「よくある質問検索」というＱ＆Ａ形式のページを整備した結果、質問件数が半減するという効果が得られた。

問　自治体がコミュニティサイトを運営している例があるという。斬新な施策は広く一般に行き渡る前に実施してこそ価値があると考えるが、刈谷市の現状はどうなっているか。

答　市民ボランティア活動情報サイトの運用を行っている。インターネット上で文章をやりとりできる機能はないが、ボランティア活動に関する情報を一元化し、市民同士の協働を形にしていくことを目的に開設し、年々アクセス数が増加している。

白土　美恵子　議員（一問一答方式）
肢体不自由特別支援学級の設置
―市教育委員会から県教育委員会へ申請―

問　特別支援学級は、障害の比較的軽い子どものために、小中学校に肢体不自由児や知的障害など障害の種別ごとに設けられた少人数の学級であるが、過去に肢体不自由特別支援学級を設置したことはあるか。

答　過去に肢体不自由特別支援学級が設置されたことはないが、保護者の要望により、肢体不自由児を小中学校に受け入れたことはある。

問　肢体不自由児の保護者は就学先として、専門の先生がいるひいらぎ養護学校に入学させたいと考える方が多いが、通学に刈谷市の北部からは２時間近くかかるため体力的に負担が重い。現在、県教育委員会に市内小学校での肢体不自由児特別支援学級の設置を申請しているが、設置決定時期はいつ頃になり、仮に設置できなかった場合はどうなるのか。

答　２月中下旬に県教育委員会から通知があり決定する。肢体不自由特別支援学級が設置されなかった場合、養護学校への就学若しくは地元小学校への就学が考えられるが、今後の進路については、保護者とよく相談して決定していく予定である。

神谷　昌宏　議員（一問一答方式）
障害者自立支援法の継続を要望
―国民の声に耳を傾けよりよい障害者施策を実施―

問　障害者自立支援法により障害福祉サービスは質・量ともに高まったと思うが、どのように評価をしているか。

答　サービス支給決定の尺度となる障害程度区分が全国共通で透明化された。自己負担も軽減され、また民間事業者の参入も増え障害福祉サービスの利用も増加している状況である。

問　就労移行支援により「半日就労できた人」が、次のステップとして「終日就労できる」ようにするために支援は継続されるべきだと思うがどうか。

答　就労移行支援は就労を一つの目標としているので「半日就労できた人」については残りの時間を移行支援サービスなどを利用してもらっている。議員の指摘は、就労する人が増えている状況において今後の課題と考えている。

問　民主党のマニフェストでは障害者自立支援法は廃止と言われているが、どう考えるか。

答　今後の国における検討の経緯を注視していきたい。制度が改正された場合には、利用者が混乱したり、システム変更などに相当な経費がかかるが、サービス維持に努めたい。

寺田　吉成　議員（一問一答方式）
中央生涯学習センターでの新しい取り組み
―大学と連携して市民に広く学習の機会を提供―

問　大学と連携した講座を開設する目的、趣旨は何か。

答　知識の習得を目指す市民に広く学習の機会を提供するため、高度な知的財産を持つ大学との連携により、その知識を地域に還元していく。

問　連携する大学として、愛知教育大学と名城大学を選んだ理由は何か。

答　基本的には、愛知教育大学を第一と考え、それ以外に幅広い分野において講座を実施できる能力が必要となることから、多くの学部があり連携にも前向きな名城大学を予定した。

さまざまな活用が期待される中央生涯学習センター

問　他の大学との連携は考えていないのか。

答　現在予定している２つの大学で相当の分野の講座が提供できると考えているが、将来的には講座に幅を持たせるため他の大学との連携も検討する。

問　具体的な大学との連携方法と講座の内容はどうか。

答　基本的には大学が講座内容の企画、講師派遣を担当し、広報、受講者募集等を市が担当する。講座内容としては、教養的なものを中心に、市民が参加できるようあまり専門的になり過ぎないよう検討していく。

編集後記

◆「年越し派遣村」で始まり、「政権交代」が流行語となった激変の平成二十一年が幕を閉じました。歴史的な節目となる年であったと思いますが、国として多くの課題が持ち越しにされたのも現実です。少ない財産を分かち合える社会の実現が、今後の日本に課せられているテーマです。「貧しくとも心豊かな暮らし」、そんな合言葉が実感できる日本であり、刈谷市であってほしいと願います。

◆剣道や柔道などの武道、あるいは茶道・華道・書道など、日本には「道」という名を持つ多くの優れた独特の伝統文化があります。この「道」には、精神修養を通じて完成された人格を目指すという意味が込められています。その神髄は普通の人ではなかなか理解できないところではあるのですが、言葉で説明できなくてもなんとなく伝わってくる雰囲気のようなものがあります。それこそが、日本人ならではの精神文化であると思います。

◆日本を訪れる多くの外国人から高い評価を受けるものの一つに、老舗旅館などで提供される「おもてなしの心」が挙げられます。お客様の心の内側を推測して、「こんな時にこうしてもらえたら自分はうれしい」と思えることをさりげなく提供して差し上げる、その心遣いは必ず自分に返ってくると信じているのです。思いやりにあふれた「日本の心」、忘れたくないものです。

（議会広報委員会）